



3年生道徳の授業

昨日29日(水)の5時間目に、3年3組で道徳の研究授業が行われました。教科書の中の「なんにも仙人」というお話でした。

あらすじ「仕事をせず、遊んでばかりの怠け者の太助が道で、壺から出てきた『なんにも仙人』に出会った。怠け者な性格を気に入られ、仙人は太助の家に住み着いた。不思議なことに太助が遊んで帰ると仙人は次第に大きくなっていった。太助は近所のおじさんに進められ、畑仕事をはじめた。仕事は今まで遊んでばかりいたので、『面白い』と思った。すると仙人の体は小さくなり、太助が働けば働くほど、仙人はどんどん小さくなった。ある日家に帰ると、仙人はいなくなっており、壺の中に真っ白なお米がぎっしり入っていた。」

今回の授業のねらいは、「進んでみんなのために働く」という意欲を育てる」というものです。子供にとっても「働く」ことは身近なことです。例えば係の仕事、給食当番、委員会などが考えられます。また、働いたらお金をもらう労働もありますが、ボランティアなどの無償の労働も含まれます。働くことはどんな意味があるのでしょうか？

今回の授業は「帯西イエロー」の心「進んでみんなのために働く」に向かって子供たちの心を耕しながら、働く楽しさとは？働く面白さとは？について一人一人が自分事として考えていきました。

自分のしたこと(仕事)が、だれに、どのように、役に立っているのか。仕事をするとは、自分にとってどんないいことがあるのか。これらの意味を、この教材を通して考えることが、授業の核になります。授業の中で子供たちにとっての働くことの面白さを問われると「お母さんが喜んでくれる」「お父さんにマッサージをすると、『気持ちよかったよ』といわれる」「自分が嫌って思っても、皿洗いをやり通したら、達成感がある」と自分なりの仕事観を出し合い、さらに上級生やおうちの人の働く喜びにふれ、働く意義についての議論が深まりました。

そして、「みんなのために進んで働く」ことについて、これから大切にしたいことや学んだことを担任から聞かれると、「みんなや自分のために自分の仕事をしていきたい」や「仕事をする100倍いいことが返ってくるから、働きたい」などと意見を出し合って道徳的価値の本質に近付いていくような授業となりました。

今回の道徳の授業について、子供たちが帰った後に、全職員で授業研究会を行い、職員一人一人が授業への疑問を出し合ったり、改善点を述べ合ったりし、明日からの自分自身の授業づくりに活かすことができました。これからも全職員で、子供たちの道徳性を高める授業づくりを考えていこうと思います。

今回も、子供たちと職員とで帯西イエローの心を醸成する方法について、しっかり考えることができる研究授業となりました。3年3組の皆さん、貴重な道徳の授業を共有させていただき、ありがとうございました。

